

家と庭をつなぐ

家と庭が一緒になって「家庭」という意味を表すように、家と庭をつなげて考えてこそ、美しい家＝家庭が出来上がります。

日本には四季があり、庭の木々や花の移り変わりにより季節を感じる暮らしを人々は送ってきました。庭をデザインすることで、その家の窓から見える景色は180度変わります。家と庭どちらも切り離して考えることは出来ないのです。

家と庭をつなぐデザインこそ、今の家づくりに大切な要素だと白川建設は考えています。



木と職人をつなぐ

白川建設では、品質の良い無垢材だけを社長自らが仕入れています。そして職人が木材の特性を見極め、柱、梁、桁と目的に応じて使い分け、適切な木材を選定します。豊富な経験や知識に裏付けされた高度な職人技術によって、より強い躯体が出来上がります。

山から切りだされた木は生きているから個性があり、生育環境によって様々に変化します。

それを熟知している職人が素材を見極め、丁寧に加工していく大工の手刻みにこだわることにより、工業製品では感じることのできない温もりを届けることができると考えています。

最高の木と最高の職人をつなぐこと。それも白川建設の家づくりです。



旧広瀬邸の庭園。座敷から眺める庭は季節により様々な顔を見せてくれます。歴史的な建築からも、庭ありきの家づくりを知ることができます。

